

1,2-ジブromエタン(二臭化エチレン)の分解度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和51年4月7日～昭和51年12月1日
2. 試料名 1,2-ジブromエタン(二臭化エチレン)
(試料№K-172)
- 分子式 $C_2H_4Br_2$
- 構造式 $\begin{array}{c} CH_2Br \\ | \\ CH_2Br \end{array}$
- 性状 比重 2.18 (20/4℃)
- 融点 9.3℃
- 沸点 131.6℃
- 蒸気圧 11.0 mm Hg (25℃)
(提示資料による)

3. 試験方法及び条件

環保業第 5 号 }
薬 発 第 615 号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による
49 基局第 392 号 }

3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

3.2 酸素消費量測定

3.1 の記録による

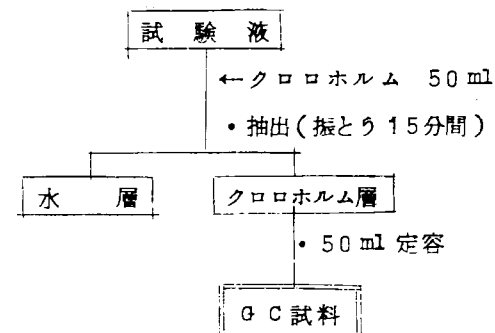
3.3 生分解試験後の直接定量法

(a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

以下次頁に続く

(b) 分析試料の前処理



(c) 分析条件

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス N_2

充てん剤 15% TCP/クロモソルブ W

ステンレスカラム 3 mmφ × 2 m

カラム温度 110℃

4. 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	0	1	—
GC による結果	※	2, 3	1

※ 揮散のため分解度は求めなかった。

5. 備 考

直接定量の結果汚泥系、水系共残留量が少ない。この原因として回収の悪さ、揮散等が考えられたため確認試験を行つたところ、回収率は良好であつた。(図-4, 表-2 参照)

又揮散性の確認試験においては密閉系で14日間経時変化を測定したところ、約55%しか残留量がなかつた。(図-5 参照)

それ故 K-172 は揮散性があると考えられる。